

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月16日

【評価実施概要】

事業所番号	O371100413		
法人名	有限会社 古川商事		
事業所名	認知症高齢者グループホームございしょの里		
所在地	〒026-0301岩手県釜石市鶴住居町第23地割り21番地1 (電話) 0193-28-1300		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年10月3日	評価確定日	平成21年1月16日

【情報提供票より】(平成20年8月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	9月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	16 人	常勤	14 人, 非常勤	2 人, 常勤換算
				11.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨・耐火建築物 造り		
	2階建て	1階	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	おむつ代理美容代実費負担	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	230 円
	夕食	300 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月3日現在)

利用者人数	17名	男性	1名	女性	17名
要介護1	10名	要介護2	6名		
要介護3	1名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均	81歳	最低	75歳	最高
					88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	はまと神経内科クリニック
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設長の明るい人柄が、施設全体を照らしているような和やかな施設である。「太陽の如く あかるく、あたたかく、まるく」は、この施設を象徴するような理念であり、家庭的な雰囲気の中、職員は親身な対応を心がけている。この施設の特徴的な強みは、施設長が施設所在地区の出身で地域との繋がりが強いということであり、認知症支援のための地域ネットワーク作りについても、今後が期待されることである。特に意欲的な点として、施設長のリーダーシップの発揮、職員の業務改善の姿勢が挙げられる。立地は海水浴場の根浜海岸に近く、JR鶴住居駅から徒歩で10分程度で、住宅地に隣接するとともに、自然に恵まれた環境にある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価における課題であった援助に関する記録の整備、運営推進会議の効果的な実施、日常的な家族への情報提供、職員研修に関する年間計画の作成と研修の実施、食事や入浴等の支援等については、職員間で話し合いを行い、改善のための取り組みを実施している。重度化や終末期に向けた方針の共有については、施設の方針を家族へ説明するとともに、今後の対応のあり方に関する検討を行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で明らかになった課題への取り組み状況についての確認を行いながら、自己評価を実施し、提供されているサービスが理念に示されている「太陽の如く」「あかるく、あたたかく、まるい」支援となっているかという点についての確認を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では市の担当者や利用者家族、地域関係者の参加を得て、利用者の生活状況や、行事の実施状況についての報告を行うとともに、それらの意義や実施方法についての検討を行っている。また、地元の祭りなど地域行事への参加などについても協議を行い、サービスの向上に役立っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日頃から、利用者の家族とは頻りに連絡を取り合っており、利用者の生活や心身の状態に変化が見られた場合は、その都度報告を行っている。毎月「ございしょの里便り」を郵送するとともに、利用者の様子や預かり金の状況についての報告を行っている。また、事業所の運営に関して利用者家族へのアンケートを実施しながら、希望や意見を確認し、サービスの向上に役立っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に参加し、回覧板による情報の共有を行っている。また、日常の散歩の中で近隣の人々との挨拶や会話に加えて、花見会、地域の祭り、町内会主催の運動会への参加などにより交流を深めている。また、地元の中学生在がボランティアとして施設を訪れ、踊りの披露やゲームなどによる交流も行われている。

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設設立以来「太陽の如く」という言葉を掲げ「あかるく、あたたかく、まるく」を援助の基本理念とし、利用者の人権・人格の尊重、心身機能の維持回復と社会復帰の可能性を求めて支援することを目的に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念を食堂に掲げ、その共有を目指すとともに、職員は利用者の話をよく聞いて、温かい対応を行うよう、日夜取り組みを行っている。特に、利用者が孤独感や寂しさの中で生活をする事がないように、温かいコミュニケーションときめの細かい対応を心がけている。	○	職員全体で、理念の実現化のための具体的な取り組みの状況について報告し合ったり、意見交換を行うことにより、より効果的な理念の共有と日々の取り組みを行うことを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常の散歩の中で近隣の人々との挨拶や会話に加えて、花見会、地域の祭り、町内会主催の運動会への参加などにより交流を深めている。また、地元の中学生在がボランティアとして訪れ、踊りの披露やゲームなどによる交流が行われている。	○	地域との関わりは、当施設の強みであり、認知症支援のネットワーク作り等今後の取り組みに大きな期待を寄せている。職員には認知症キャラバンメイト研修修了者もいることなので、ぜひ手始めに認知症サポーター養成に関わることも検討していただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果明らかになった記録の整備、運営推進会議の進め方、家族への情報提供、職員研修に関する年間計画の作成、食事や入浴支援等の課題に関して職員間で話し合いを行い、改善への取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況や、行事の実施状況、更には今後の取り組みのあり方などについての話し合いが行われている。また、地域行事への参加などについても、委員会での協議の内容を参考にしながら、利用者へのサービスの向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への市の担当者の参加を得て、情報交換と連携強化の機会としている。また、年4回の広報による報告や、事業所の敬老祭への市担当者の招待など、様々な機会を活用しながら行政との連携を進めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活や心身の状態に変化が見られた場合はその都度、報告を行っている。また、家族が来訪の際は、日ごろの生活の様子について報告している。このほか月に1回は「ごさいよの里便り」を郵送するとともに、利用者の様子や預かり金等についての報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、事業所の運営に関連して利用者の家族へのアンケート調査を行い、意見や希望を確認している。また、運営推進会議の委員の中に家族が入っており、意見が反映されるとともに、相談・苦情の窓口の設置及び「投書箱」の設置等により家族の意見を反映するためのシステムを整備している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	安定した関係性を維持するため極力、職員の異動がないようにしている。これまでにユニット間での異動が行われているが、日頃からユニット同士の顔なじみの関係を築いているため、利用者が混乱するようなことはなかったとのことである。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前回の評価の際、課題として話題となった研修に関する計画の立案の必要性について、今年度は年間計画を作成し、外部研修及び内部研修に取り組んでおり、研修実施に関する資料も整備されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入すると共に、地域のブロック協会の研修会に参加し「運営推進会議の進め方」「食中毒の予防・対応」「ソフト食の工夫」などについての情報交換を行うと共に、施設間での職員の交換研修にも取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、利用者や家族の施設見学を受け入れ、他の利用者や職員との交流の中で施設の雰囲気を感じ取り、安心していただけるように配慮している。また、希望者については、お試し入所も受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	親身になって一人ひとりの利用者と向き合い、話を聞きながら、喜びや悩みを共にしている。利用者を楽しんでもらえると共に、職員もまた楽しめるような関わりを目指して取り組んでいる。		受容的、共感的な関わりを重視することは大切であるが、そのことと合わせて、利用者一人ひとりの個性や主体性をサポートすることのできるケアのあり方について検討を行っていただきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の希望や意向の把握に努めているとともに、入居時のアセスメントや生活記録を活用したり、申し送りノートを活用したりする事により利用者の思いや希望を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者家族の希望や意見を取り入れて、ケアプランを作成している。日常生活の支援の中で、何か問題が生じた際には、家族や利用者話し合うとともに、申し送りの場面などで職員間で話し合いながらケアプランの検討を行っている。		アセスメント記録、生活記録、申し送りノート等を活用して利用者の意向を把握し、効果的に支援の中で役立てていくためには、チームとしての話し合いと、その記録が必要になる。定期的なケア会議の開催とその記録の整備を検討されたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者や家族の希望及び意見を取り入れてケアプランを作成すると共に、三ヶ月に1回は見直しを行っている。日々の関わりの中で利用者の思い、心身の状態、家族の意見を確認し、見直しが必要な場合には、毎日の申し送りの場面等を活用しながらプランの変更を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の健康管理は、デイサービスの看護師と連携しながら対応を行っている。通院は基本的には家族が付き添うこととなっているが、緊急時は職員が受診を支援している。また、お試し入所や、地域のお祭りへの利用者の参加なども行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりのかかりつけ医を確認し、心身に変化が見られた場合や、通院の希望があった場合には、家族とも連絡を取り合いながら、受診の支援を行っている。家族が付き添う場合はバイタルや日常生活の状況に関する資料を提供し、必要に応じては職員が付き添う場合もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の時点で、施設としては終末期の対応を行っていないことを説明している。日ごろから、心身の変化に十分注意するとともに、変化が見られた場合は、家族や医療機関と連絡を取り合いながら対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーや自尊心に配慮した言葉づかいをするよう、職員間でお互いに声を掛け合い注意し合っている。なお、前回の評価で課題となっていた、プライバシーに関する職員の内部研修については、今年度は実施済みである。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や思いを重視しながら、話し合い実現に向けて取り組んでいる。散歩や、自宅の訪問のドライブに出かけることやお化粧することなど、その人らしさを支える取り組みは、利用者には喜ばれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望のメニューを聞き、献立に取り入れている。食事中は職員が会話を盛り上げ、明るく楽しい雰囲気の中で食事が行われている。食事終了後は、利用者と職員と一緒に後片付けを行っている。		利用者にとって食事の準備に関わることは、その人の役割や特技を生かすことと繋がる可能性が高いので、「食事の準備」への支援の可能性を検討していただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回以上の入浴となっており、利用者の清潔保持に留意しているが、それ以外にも、希望があればその都度、シャワー浴を実施している。入浴の援助では、会話をしながら、入浴中ゆったりと気持ちよく過ごしてもらえるよう配慮しているとのことである。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	天気の良い日には、中庭で食事をとったり踊りを踊ったり、施設の外へ散歩に出かけることを支援している。また、談話室で、歌を歌ったり、塗り絵や手工芸など利用者が好きなことに取り組むことができるよう支援している。	○	利用者とのコミュニケーションの中で、好きなことの他に、特技や好きな役割なども探り出しながら、喜びのある日々を過ごせるような支援を目指していただきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	普段、天気の良い日は毎日のように散歩に出かけている。また、月に1回はお花見、紅葉見物、釜石大観音への観光などのバスハイクを行っている。希望者がいる場合は、近所の売店への買い物付き添い支援等も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は職員の見守りを重視し、玄関に鍵はかけていない。ただし、念のために、ドアチャイムを設置しており、利用者の動向が確認できるようになっている。20時から、朝の6時まででは防犯のために、玄関に施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を得ながら、年2回の避難訓練を実施している。前回の外部評価の際話題のあった、地域との連携に関しては、地域消防団の幹部が運営推進委員となっており、連携強化のための話し合いが進められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ごとに食事の残量を確認するとともに、定期的に体重測定を実施している。また、一人ひとりの身体状況や咀嚼能力に応じた献立づくりを心がけるとともに、栄養バランス等について、定期的に栄養士の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏場は中庭にテントを設置し、食事や談話の場として活用している。施設内の共有空間については、清潔を第一に考え、その上で快適に過ごしていただけるよう、花を飾ったり、正月や七夕など季節の飾り付けを行い雰囲気を楽しめるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、自宅で使っていた布団やタンスなど家具や身の回り品を持参していただくように家族に話をしており、家族との連携のもとで、利用者が少しでも居心地よく過ごせる居室となるように配慮している。		